



韓国の取り戻されつつある日常 ～オフラインイベントが増加～

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 酒井 陽一郎 (宮崎県派遣)

はじめに

韓国では、新型コロナウイルス感染症の1日の感染者数が2022年3月には60万人を超える日もあり、「外に出れば感染する」と言われる時期もありましたが、4月以降、感染者数は徐々に減少していき、それに伴い感染対策も段階的に緩和されていきました。

屋外でのマスク着用義務も解除され、次第にオフラインイベントが増加しており、当事務所もこれまでの制限のあった期間と比べるとさまざまなイベントに参加できるようになってきています。

朝鮮通信使まつり (釜山広域市)

2022年5月6、7日に釜山文化財団主催で3年ぶりに開催された「朝鮮通信使まつり」に参加しました。

「朝鮮通信使」は、朝鮮王朝時代の日韓交流の象徴とされる韓国から日本へ派遣されていた外交使節団で、「平和への願い」をテーマに日韓の交流の促進を目指して、当時の使節団の行列を再現したパレードや、復刻された朝鮮通信使船への乗船などのイベントが開催されました。



復刻された朝鮮通信使船

また、関係者レセプション「友好交流の夕べ」では、今後の日韓交流について活発な意見交換が行われました。

国際友好都市フォーラム、世界ガス会議 (大邱広域市)

5月23、24日には、大邱広域市にて国際友好都市フォーラムに参加しました。「持続可能な都市発展」をテーマに世界各地より事例発表などが行われ、日本からは在釜山日本国大使館の丸山総領事が登壇したほか、オンラインで神戸市長、広島市長が参加されました。

丸山総領事からは、日本の「もったいない精神」が紹介され、各国の関心を集めていました。大邱国際友好都市フォーラム



また、同期間で開催された「世界ガス会議」の視察も行いました。5月24日から27日の間に、世界各国の技術展示などが大規模に行われ、世界80以上の国と地域からおおよそ2万人が参加し、エネルギーの安全保障が国際的な課題となる中、天然ガス安定供給などをめぐり意見が交わされました。新型コロナウイルス感染症の拡大後、最大級のオフラインの国際イベントということもあり、新型コロナウイルス感染症の拡大前の日常が戻りつつあることを実感できる機会となりました。ナイジェリア企業担当者による説明を受ける様子



日本公務員招請事業（慶尚北道）

6月9、10日には、慶尚北道庁が主催する在韓の日本公務員を対象とした招請事業に参加し、慶尚北道の歴史的な建造物などを見学するとともに、慶尚北道庁を訪問し、関係者との意見交換を行いました。



慶尚北道庁の関係者と意見交換

慶尚北道庁での意見交換では、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束し、以前のように日韓の交流が再開される際には、これまで以上に地域レベルでの交流を促進することで、日韓交流の促進を目指して行きましょう」などのご意見をいただきました。

また、慶尚北道内のさまざまな歴史的建造物の見学や文化の紹介をいただく機会もあり、日本と類似している点や異なる点などを実感でき、韓国内の地域についての理解を深める貴重な機会となりました。



慶尚北道内の昔ながらの家屋が残っている地域

ソウル国際観光展（ソウル特別市）

6月23日から26日の間には、ソウル国際観光展にてブースを出展して、日本の自治体のPR活動を行いました。

来場者からは、「はやく日本に旅行に行きたい」「初めて知る自治体もあり、日本への興味が高まった」などの嬉しい声をいただきました。

依然として海外への往来には、さまざまな制限がある状況ですが、長い間我慢が続いた分、韓国人の日本へ旅行に行きたいという熱の高まりを実感することができました。



クリアソウル出展ブースの表彰および来場者に日本の自治体のPRを行う様子

6月からは、停止されていた日本から韓国への観光ビザの発給が再開したり、韓国から日本への団体旅行が可能になったりと徐々に日韓の往来が以前の形を取り戻しつつあります。

当事務所では、さまざまな事業を通して日本の自治体の魅力を発信していくとともに、日韓の地域間交流をサポートする取り組みを推進することで、より多くの方に日本の自治体に興味を持ってもらい、新型コロナウイルス感染症の収束後に、実際に日本全国の自治体に足を運んでもらえるように努めていきます。

【韓国人向けに日本の自治体の魅力を発信中】
[도란도란 트란드란]

